



一小学校だより

令和8年2月27日号
日野市立日野第一小学校
校長 小川 真由美
TEL 042-581-0061



心 揺さぶられる！ 感動ってすごい

校長 小川 真由美

春一番が吹き、太陽の光が優しく降り注ぐ、穏やかでポカポカと暖かい春の訪れはもうすぐです。学校では今年度のまとめの時期になります。1年間、子供たちの成長や努力を支え、励ましてくださりありがとうございました。卒業や進級を前に、お子さんと一緒にこの1年間の出来事を振り返ってみてください。子供たちはきっと自身の成長を感じ、次に向かうための自信やモチベーションをもつことができるのではないかと思います。

さて、2月6日から22日までミラノ・コルティナ2026冬季オリンピックが開催されました。時差があるため、オンタイムで競技中継を見るのは難しかったのですが、それでも活躍を楽しみにしていた競技は睡眠時間を削ってテレビを見てしまいました。子供たちの中でもオリンピックに関することが、たびたび話題となってました。連日、競技結果が報道され、積み重ねてきた努力が実を結んだ選手、悔し涙を流しながらリベンジを誓った選手等、今回のオリンピックでも様々な選手の姿がありました。その姿は私達に力強いメッセージや感動を与えてくれました。

ところでスポーツを「みる」「する」ことが人の感情や日常生活に与える影響についての研究から、スポーツを「みる」(スポーツ観戦)ことによって「幸福感」と「生活満足度」が向上するという成果が多数報告されているそうです。家族や友人とのスポーツ観戦はより関係性を深めることにつながり、また、勝利の喜びを分かち合ったり、敗北の悔しさを共に乗り越えたりする経験が、「連帯感」に似た感情をもたらし、心理的な安定を感じさせるそうです。さらに、アスリートたちの努力や成功を見て「自分も頑張ろう」「困難に立ち向かおう」というポジティブな刺激を受けたり、「彼らのように〇〇の選手になりたい」という夢をもったりすることが、意欲や粘り強さにつながったりするそうです。こうしたことの根底にあるのは「感動」で、感動することによって心身ともに良好な状態が作り出され、生活の質の向上につながるということです。スポーツ観戦を通じて、私自身も様々な感動を覚えてきました。今年もWBCやFIFAワールドカップ大会等多くの国際大会が開催予定です。感動を共有する体験が、多くの人に幸福感や「明日も頑張ろう」というようなプラスの心の有り様につながることを期待したいと思います。

この1年間、学校の教育活動でもたくさんの「感動」場面がありました。それらが子供たちの学校生活満足度の向上につながるよう、教職員一同、教育活動の充実に取り組みました。保護者及び地域の皆様には、本校の教育に対する温かい御理解と御支援をいただきありがとうございました。今年度も残り1か月となりましたが、子供たちが希望と喜びをもって進学・進級できるように引き続き取り組んでまいりますので、どうぞよろしく願いいたします。

○次年度の学級編成について

現1～4年生は、学級編成替えを実施します。

また、現1年生については、現在学年の人数が70名のため新2年生は、2学級の予定です。さくら組は引き続き4学級編成の予定です。

○年間行事予定について

保護者会で年間行事予定をお配りしましたが、今後行事の入れ替えが必要になった場合、日程変更の可能性がります。何卒ご了承ください。（*4月に改めて年間行事予定表を配布する予定です。）

○次年度から「コミュニティ・スクール」がはじまります

日野第一小学校コミュニティ・スクール（学校運営協議会）が発足します。「コミュニティ・スクール」は、学校・家庭・地域がそれぞれの役割と責任を持ち、連携した中で教育活動を展開する仕組みで、協力し合うことで学校や地域での課題解決や活動が活性化することなどが期待できます。コミュニティ・スクールの主な役割は、より良い教育活動に向けて、学校運営の基本方針の承認を行うことのほか、学校運営や教職員の任用について意見を述べていくなどがあります。これまでも学校運営連絡協議会の中で、学校・家庭・地域の代表の皆様方より教育活動の充実に関する意見をお聞きしてまいりました。これまでの取組みを生かしながら、より連携を深め、教育活動の展開が図られるようにしていきたいと考えています。

〈第3回 学校運営連絡協議会より〉

1月24日(土)に本年度最後の学校運営連絡協議会を行いました。学校評議員の皆様から、当日行った道徳科の授業の様子や講演会、学校評価の結果を中心に協議を行い、以下のようにご意見をいただきました。

○道徳科の授業では、子供たちが真剣に話を聞き、授業でも積極的に話し合う姿が見られたこと、自分の考えを発言できるようになってきた。

○講演会について、「生き方を考える大変よい講演だった」「責任や命について深く考える機会になった」

○異年齢交流では、高学年のリーダーシップに加え、下級生の役割も大切である。

○学校にいつ来ても、子供たちが積極的にあいさつしてくれる。

以上、この他にも多くの評価をいただきました。

学校として、今後も自分自身を大切に、他者を尊重できる児童の育成を目指し、道徳教育の充実を図ってまいります。また、全ての教育活動を通して、互いを認め合う関係づくりを大切に、自己肯定感や協働性の向上に努めてまいります。改めて、学校は保護者、地域の皆様に支えられていることを実感する会となりました。